

砂防ボランティア通信

NPO法人

大阪府砂防ボランティア協会

☆ごあいさつ

残暑厳しい折から、会員の皆様にはお元気でお過ごしのことと思います。本協会のために、何かと御盡力賜わりまして、誠に有難うございます。

今年の梅雨は、平年より早く6月6日に入り、明けるのも早く7月13日で、大阪市での総雨量は158mmと平年267mmの59%と少ない年でした。府内の各地でも、多かった箕面市では205mm、少なかった堺市では112mmとばらつきが大きかったことも特徴でした。この様な少雨でしたので、梅雨期の土砂災害は発生しておりません。逆に、5月が大雨で、大阪市で月間281mmと平年139.6mmの2倍を記録し、柏原市で土砂崩れのため、人家1戸に被害が発生しましたが、まずは平穏な方でした。しかし、新潟・福井では梅雨期末期に集中豪雨に見舞われ、家屋の全壊、半壊、床上床下浸水が、新潟の14市町で約2万5千戸、福井の7市町で約1万1千戸に及ぶ激甚災害が発生しましたことは御承知のとおりです。

NPO法人として再スタートを切ったのが、昨年の3月10日ですので足掛け2年、実質的には丸1年が経過し、本協会の運営もようやく軌道に乗って参りました。去る5月26日には、16年度の通常総会を開催し、新年度の事業計画、予算を決定し、新役員の選出を行いました。今年も、緊急雇用事業による急傾斜地の点検調査及び住民への土砂災害防止の啓発活動は、ほぼ年間を通じて実施します。その他にも今迄に、土砂災害防止月間の一連の行事に参加してまいりました。今後は、砂防施設の見学会、土砂災害に関する講習会等を予定しておりますので、これらの活動につきましても、よろしく御協力願います。

今後に向けての懸案事項で、ぜひ今年度中に解決せねばならないことの1つに、事務所の問題があります。現在の大阪NPOプラザ（以下ONPという）のブースは、当初の約束ではNPO法人として巢立つ迄の3年間ということであり、その期限が来年3月に来ます。ONPの管理者であります社会福祉法人大阪ボランティア協会では、4年度目以降のブース利用について検討された結果、継続してブースを使用したい団体に、申込書を提出させ、審査の上決定したいということであります。ただし、これは単なるブース利用期間の延長ではなく、新規にブース利用を希望される団体もあり、また大阪府の補助金で利用料を安価に設定されているので、ブースの延長利用団体が、一般の理解を得られるだけの活動を展開されていることが必要条件であります。そのため、希望する団体すべてがONPに残れるのではなく、入所3年になる11団体のうち、3団体に限定して、延長を認めるとしております。狭き門ではありますが、本協会の目的や行政では取組みにくい活動であること、更に国土交通大臣賞を受賞するなどの社会的な評価を受けている点を強調し、今までどおり事務所をONPに存続出来る様に努力しているところであります。

NPO法人 大阪府砂防ボランティア協会

理事長 松村 治

☆平成 16 年度総会開催される

平成 16 年 5 月 26 日（水）NPO プラザにおいて平成 16 年度総会が開催されました。

① 平成 15 年度事業報告 15 年度に実施された主な事業は

- ・ 4 月 7 日～16 年 2 月 6 日 緊急雇用事業 斜面地点検事業（359 箇所）
- ・ 5 月 28 日 平成 14 年度臨時総会、及び平成 15 年度 NPO 法人総会（NPO プラザ）
- ・ 6 月 2 日～10 日 府市合同土砂災害危険箇所パトロール（7 土木事務所 42 箇所）
- ・ 6 月 4 日 平成 15 年度砂防ボランティア全国の集い、及び土砂災害防止推進の集い（静岡市）土砂災害防止功労者・国土交通大臣表彰受賞
- ・ 6 月 25 日 平成 15 年度土砂災害防止月間講演会への参加（大阪ドーンセンター）
その他、土砂災害に関する講習会、現地見学会（和泉市若槿地区）、ONP フェスタへの参加、ボランティア通信誌（Vol. 12）の発行等

② 平成 16 年度事業計画

平成 16 年度事業は次に掲げる活動を主体として実施することになりました。

- （1）土砂災害防止のため、府内の土砂災害危険箇所の点検調査を行い、府、市、町村、地域住民に報告、助言を行う
- （2）土砂災害防止のための防災知識の啓発普及活動
- （3）土砂災害防止技術の啓発普及のための、見学会、講習会などの開催
- （4）その他目的を達成する為に必要な事業

これにもとづいて主な事業としては

- ・ 緊急雇用事業による斜面点検事業
- ・ 大阪府、市町村合同土砂災害危険箇所パトロール（府下 7 土木事務所管内）
- ・ 砂防ボランティア全国の集い、及び土砂災害防止推進の集いへの参加、
- ・ 土砂災害防止月間講演会への参加
- ・ 砂防ボランティア通信の発行等を実施して行くことが承認されました。

③ 役員の改選

平成 16 年度の新しい役員が次のように決まりました。（下線が改選役員）

名	新役員
理事長	松村 治
副理事長	安藤 雅成
〃	岡本 冠一
理事	藤井 孝雄
〃	大山 剛毅
〃	丸山 明
〃	藤本 光大
〃	岩城 正之
監事	高木 武康
〃	田才 康通



土木部 大江ダム砂防課長挨拶

☆大阪NPOプラザブースの再利用申請について

- ・ 上記については厳しい状況ではありますが申請については、積極的に取組んで参りたいと考えております。尚応募から決定までのスケジュールは受付期間が 8 月 19 日～8 月 25 日、決定と通知が 9 月 30 日となっております。

理事 藤井孝雄

☆各事業報告について

平成16年度「土砂災害防止月間」等における行事への参加について

○土砂災害危険箇所府市合同パトロール実施状況（7土木事務所管内）

本年度は災害時要援護者関連施設に
近接する危険箇所を重点に実施しました。

実施期間	点検内容
6月1日～	急傾斜地 23ヶ所
9日	土石流 15ヶ所
参加人員	地滑り 4ヶ所
（砂防ボランティア13名）	計 42ヶ所



柏原市奥山谷

○土砂災害防止月間講演会

平成16年6月10日（木）、ワッハ上方「大阪府上方演芸資料館」において「みんなで防ごう土砂災害」をテーマに行われました。会員の参加者は14名でしたが、ほかにも多くの府OBの参加がありました。講師の国土交通省河川局砂防部の古賀省三火山・土石流対策官からは「ストップ・ザ・土石流」について講演がありました。

対策官は過去に大和川河川工事事務所の所長を経験されております。また、前任地雲仙普賢岳の復興事務所長の時代に、NHK全国のだ自慢大会に本人が自ら参加し、砂防のPRができたというエピソードの紹介がありました。

又、NPO法人里山倶楽部の寺川裕子理事からは「協働の森作り」をどう進めるかについて講演がありました。



土木部技監 丸岡 耕平氏挨拶

理事 丸山 明

○平成16年度第1回 ボランティア全国連絡協議会

平成16年5月11日砂防会館（別館）シェーンバッハ・サボー「六甲」において開催されました。

全国連絡協議会会長 田畑茂清氏から来年で神戸大震災10年を迎え国民の認識の高まりや「砂防ボランティア基金」の申請状況、土砂災害防止功労者表彰要領の改正などが今回の主な案件で、全国の砂防ボランティア関係者に対して責務と自覚が今後も望まれるのではないかと挨拶がありました。

来賓として出席された国土交通省砂防部長の近藤氏は、全国で62団体、約3700名のボランティア関係者が日常各地域で活躍されていることに感謝の辞を述べられて今後もさらに各団体の活動範囲の広がりを期待したいと話されていました。

副理事長 岡本 冠一

☆緊急雇用事業活動について

理事 藤本 光大

平成14年度より、厚生労働省所管の緊急雇用対策事業交付金を活用し、大阪府土木部から当協会に委託され、府内に点在する急傾斜地等を再調査するものであり、事業は3ヵ年計画で、今年度が緊急雇用対策事業の最終年度であります。

1 調査計画

- ・内容：過去の調査された斜面地等の点検カルテを再調査する。(280ヶ所)
- ・期間：前期 5/11～8/26・後期 10/4～1/31 (140日)
- ・体制：ボランティア会員 31名、調査員 3名、事務員 2名

2 現地調査にかかる留意事項

- ・編成：4名（ボランティア会員1名、調査員3名）で調査を行なう。
- ・役割：・ボランティア会員は調査員を指導すると共に、地元住民対応にあたる。
- ・調査員は写真・測量・スケッチ等を担当し「急傾斜地斜面カルテ」を作成する。
- ・中止条件：降雨確率70%以上及び大雨洪水注意報等、現地状況を判断する。
- ・立ち入り際：腕章及び身分証明書を携帯し、関係者の要求があれば提示する。
- ・行政との連携：地元苦情及び現地状況が危険の場合は、大阪府に報告し対応する。

3 主な対応事例紹介

イ 住宅背面の水はけ不良



交野市

ロ 隣接する岩山の不安



枚方市

ハ 法尻排水路設置



茨木市

ニ 急傾斜地の調査対象外からの調査依頼



枚方市

〒 553-0006

住所 大阪市福島区吉野4丁目29-20

大阪NPOプラザ内

特定非営利活動法人大阪府砂防ボランティア協会

(TEL/FAX 06-6464-1010)